

特報！VIP達の菊花賞展望

2005年10月24日上海馬券タイムズ特約

これは日本のみならず全世界を震撼させ、今尚現在進行中である「三連単神社参拝事件」、通称「三連単事件」に関する記録である。

1. 小泉再び靖国へ走る

事件の発端は某リベラル系大新聞が10月19日付のスクープとして下記の記事を掲載したことに遡る。

小泉首相再び靖国参拝へ！

政府有力筋からの情報によれば、小泉首相が来る10月21日、再び『神社参拝』を計画していることが明らかになった。小泉首相は去る10月17日に靖国参拝を済ませたばかりであり、このような短期間で日本の首相が2度も靖国を訪れることは異例中の異例である。前回の参拝がすでに近隣諸国の猛烈な反発を呼んでいることから、今回の参拝が日本アジア外交に致命的な影響をもたらす可能性は極めて大きく、とりわけ中韓両国との緊張が危険水域にまで高まることは避けられない情勢だ。

某大新聞の評判が最近相次ぐ捏造事件や誤報事件により地に落ちていたこともあり、当初、この記事を鵜呑みにする者はマスコミ業界内部ですらそれほど多くはいなかった。自民党が衆院選で圧勝した現在、政局はいわゆる「べた凧」状態にあり、唯一の懸案事項であった総理の参拝も既になされてしまった今となっては、いくらサプライズメーカーの総理といえども、新たな波風を立てることはあるまい、というのが彼ら『政治プロ』の共通認識であったのである。

しかしこのような彼らの心の安寧も10月21日午後にもたらされた緊急情報により吹き飛ばされることになる。永田町を出た首相公用車が、現在靖国に向け内堀通りを北上中だというのだ。

泡を食った報道陣が大挙して靖国神社前に押しかけ、現場は騒然とした空気に包まれた。首相を乗せた公用車が九段坂上交差点から靖国通りに姿を現したのは午後5時20分。そして固唾を呑んで待ち構える彼らはさらに驚くものを見ることになる。報道陣を無視するかのように、公用車が悠然と通り過ぎ、靖国通りから外堀通りを右折、そのまま後樂園方面に向け走り去っていったのである。

「一体なんだったのだ。。。」

呆然とした報道陣から拍子抜けした呟きがもれた。しかし神ならぬ彼らにはこの時気付くよしもなかったのであるが、これこそが、世に言う「三連単参拝事件」の幕が切って落とされた瞬間であったのである。

2. 三連単神社！

内閣総理大臣小泉純一郎の真の目的地は、後樂園東京ドームの横に立地する場外馬券売り場、通称「後樂園 WINS」であった。以下は総理のこのときの行動を語る目撃者Aさん(51歳、職業:競馬オヤジ)の証言である。

いやあ、びっくりしたよ。いきなりでかい車から小泉さんが降りてきたと思ったら、そのままこっちに入ってきてさ。で、何すんのかと思って見てたら、ものすごく厳しい顔してさ、三連単神社の前でずっと立ってるわけよ。ほら、こんな風に、口なんかこう真一文字に結んでさ。

え、『三連単神社』って何かって？なんだよ、あんた知らないの？あそこにあるだろ、ほら入り口のすぐそばにある神社みたいな格好をした機械、あれが『三連単神社』よ。馬券を買う人間が勝負の前に今日の運勢を訪ねると神様が「中吉」とか「小吉」とかってご託宣を授けてくれるって言うありがたい代物よ。まったく、あんた、そんなことも知らないで、よく、こういう所に来られるなあ。

Aさんが身振り手振りで証言してくれた内容を要約するとその後の総理の行動は次のとおりである。

神社前で長らく直立していた総理は、突如、意を決したように祭壇に向かい深々と一礼し、拍手を一発打つと、恭しく賽銭箱(を模した筐体)の上部に設置してあるスイッチを押した。

「大吉。万馬券の大当たりiiiiiiiiiii！」

祭壇の裏側に設置されたスピーカーから厳かに「神」の声が響き渡り、そして、それまで厳しい表情を崩さなかった総理の顔にこの時初めて晴れやかな笑顔が浮かんだのだそうである。Aさんの話を続けよう。

さっきまでの怖い顔が嘘みたいに緩んじやってさ、で、うきうきしながらもう一礼、こう深々と頭を下げてね、その後スキップ踏んで馬券売り場に駆け込んじゃったと言うわけよ。え、何を買ったかって？まあ、あの日売ってたのは菊花賞の前日売りだけなんで、それを買ったことは確かなんだけど、買い目まではなあ。でもな、菊で何が来るかはお見通しよ。いいか、1着がディーブインパクト、まあ、これは誰でもわかるわな、でもな、2着がシックスセンスって言うのは素人考えよ。いいか、よく聞けよ。そもそも菊ってのはなあ。。(以下略)

3. 国内の反応

一夜明け、事態の状況が明らかになると同時に、日本に衝撃が走りぬけた。誰もが彼の真意を測りかね、そしてその行為が示唆するところに戦慄したのである。以下は総理官邸にて行われた記者団と官房副長官の質疑応答からの抜粋である。

記者:「『三連単神社』への参拝などと言う歴代総理がいまだかつて行ったことのない前代未聞の行為はいかなる理由でなされたのか。」

官房副長官:「人のために一生懸命走り続ける競走馬への感謝の念と、「馬券をはずす」などと言うことが2度と起こってはならないという『不敗の決意』をこめて参拝したと聞いている。」

記者:「『不敗の決意』とは、具体的には何を指すのか。」

官房副長官:「先ほども申し上げたとおり、2度と馬券をはずしてはいけないと言うことだ。聞くところによると過去のジャパンカップで大変悲しい思いをしたことがあるそうで、そういう思いは2度としたくないと言う総理の固い決意が込められているようだ。」

記者:「今度の菊花賞にも期するものがあるということか。」

官房副長官:「そういうことだ。郵政民営化に勝るとも劣らない熱意で取り組んでいると聞いている。」

記者:「近隣諸国から反発の声があがっているが。」

官房副長官:「三連単神社への参拝は人の心に属する問題であり、他人、ましてや他国がとやかく言う問題ではない。三連単神社にすぎる気持ちは、馬券を買う人間ならきっと分かってもらえると信じている。」

記者:「総理の参拝が政教分離を定める憲法に違反しているとの高裁判断がこの前下ったばかりだが。」

官房副長官:「参拝は平服で行われており、記帳、供花、賽銭のたぐいも全く行ってない。完全に個人の資格で行った行為であり憲法には違反していないと確信している。」

記者:「総理の肩書きを有する人物が公用車を使用して神社に参拝することはやはり憲法違反ではないかと言っているのだが。」

官房副長官:「そもそも三連単神社を掌括するJRA(日本中央競馬会)は宗教法人ではなく、この行為は最初から宗教活動には当たらないと言うのが内閣法制局の判断である。」

記者:「三連単神社は後楽園だけでなく、全国の競馬場、場外馬券売り場に『分祀』されている。将来JRAがこれを母体から切り離し、宗教法人に格上げする可能性も考えられるがその時はどうするつもりなのか。」

官房副長官:「仮定の話には答えられない。」

総理のこの「暴挙」は当然のことながら国民の間で喧々譁々たる議論を巻き起こしたが、意外にもこれを支持する国民が無視できぬ規模で存在するらしいということがわかったのは菊花賞前日のことであった。TV局が行った緊急アンケートによると「総理の行為を理解する」が45%と「理解できない」44%をわずかながら上回っていることが判明したのである。

このことに意を強くした閣僚5名を含む超党派の国会議員200名が「**みんなで三連単神社に参拝する国会議員の会**」(会長安倍晋三)を結成、同日夕に汐留WINSにある三連単神社への参拝を強行した。ファスナー付きジャンパーに野球帽、右耳には赤鉛筆をはさみ、左耳には短波ラジオのイヤホン、左脇には競馬新聞を携えると言う古式ゆかしき競馬装束に身を包んだ議員団が姿を見せると市民団体からは怒号が、競馬オヤジからは歓声が沸き起こり日ごろ閑静な汐留一帯が騒然とした空気に包まれた。(因みに一人だけ紋付はかまと言う靖国モードで参加したのは杉本太蔵議員であったが、「競馬道の常識をわきまえない非国民」と怒った大仁田厚議員のスリーパーホールドに締め落とされ、そのまま連れ去られたようである)

4. 日本を崇めよ!

これまでの靖国参拝同様、大騒ぎを伴いながらも結局は穏便な結末に行き着くのではないかと思われ始めた本件の展開は、22日夜半にもたらされた驚くべき一報により急転直下、極めて先行きの不透明な事態へと進展し

て行った。総理が当日買い求めた三連単馬券の軸馬が圧倒的一番人気が予想される**ディーブインパクト**ではなく、なんと上位人気も危ぶまれるピワハイジの子**アドマイヤジャパン**であったということが判明したのである。総理の後見人をもって任じ、前日総理から馬券の相談を受けたと主張する自民党森喜朗前総理は、記者団とのインタビューに答え下記のコメントを残している。

激論80分...森氏の発言要旨

自民党のみんなが心配してる。国民も心配してる。もう少し、何か知恵があってもいいんじゃないかというのがみんなの声じゃないか。私も昨日今日と色々な人たちと会って意見聞いてもみんな、やっぱりそう(ディーブインパクトを軸にすべきだ)ね。政治家だけでなく経済界も。

(首相が)すしぐらいとってくれるのかと思ったら、出てきたのはWINSの紙コップとビール。公邸にこれしかないんだって自分で抱えてきたよ。ビール十本を二人で飲んで、なくなったからもうビールないのかと聞いたら、ないと。出してくれたのは、ひからびた焼きそばみたいなもの(後にWINS軽食コーナーの残り物と判明)。それしかない。かんだけど硬くて食べられない。こんな待遇で一時間半も。

はっきり言って、おれもサジ投げた。これまで人気馬を買いまくって、それで儲けさせてもらったのに、それを切り捨てて、その馬を苦しめて何の意味があるんだって言った。

(首相は)おれの信念だ。おれは殺されてもいい。それぐらいの気構えでやっている。だからアドマイヤジャパンを買ってくれ、と手を握られた。そんな馬券を買った人たちが路頭に迷うようなことがあったら君はどう責任とるんだ、と言ったら(首相は)仕方がない。おれは総理大臣だ。おれは万馬券を取るって言い続けてきた。(Dインパクトを)好んで切るわけじゃない。

いろんなことを私は説いた。弥生賞、皐月賞、ダービー、神戸新聞杯も。これだけ圧勝してきた馬(ディーブインパクト)を見ながら、アドマイヤジャパン狙い、これだけは政治家として容認できない、やっちゃいかんと。もういっぺんよく考えてみてくれんかと言ったら、変わらないと。もうこうなると変人以上だな。

神をも恐れぬ首相の買い目が明らかになるに及び、世論は再び沸騰した。これまで首相に同情的であった世論にとっても、ディーブインパクトを公然と切り捨てるという行為はさすがに理解の範疇を超えるものがあったのである。

これでようやく反撃の機会をつかんだということなのか、これまで押されっ放しであった野党民主党前原代表は下記の声明を発表し、首相を強く非難した。

「捨て身で望んだ衆議院選挙に勝利したことで、ハイリスクハイリターンな勝負がすっかり病みつきの結果

の無謀な選択としか言いようがない。競馬の本質は単勝であり、三連単を購入する行為自体が政治家としての資質を疑うものであるのに、ましてやアドマイヤジャパンなどは、言うべき言葉も見つからない。このようなギャブル体質丸出しの首相の下で国政が運営されることに強い危機感を覚える。」

連立与党である公明党にとっても今回の首相の選択は心外なものであったようである。神崎委員長は短くはあるが下記のコメントを公表し、不快の念をにじませた。

「相談もなしにこういう馬券を買うのは大変遺憾ざき！」

5. 中韓の激昂

おさまらないのは中韓両国である。韓国政府は首相の三連単神社参拝から時を置かずして、「戦時中、日本軍に徴用された朝鮮馬ならびにその子孫に対する許しがたい侮辱であり、断じて許すことは出来ない。」という条件反射的な非難声明を公表したのであるが、中国の声明は時間をかけて作成されただけあって、より激烈かつ周到なものであった。中国外交部李肇星部長が、日本の阿南惟茂駐中国大使を緊急に呼び、読み上げた声明の概略は次のとおりである。

日本の小泉純一郎首相は、21日、中国やアジア他国の国民の強い反対を顧みず、三連単神社参拝を強行し、日本皇室の象徴たる『菊』の勝利を祈願したばかりか、『賞賛日本(アドマイヤジャパン)』なる馬を軸にした馬券を購入すると言う暴挙を行った。被害国の国民の感情と尊厳を傷つけ、中日関係を著しく損なうこのような小泉首相の誤った行為に対し、中国政府と中国の国民は強い憤慨を表明し、日本に強く抗議する。

(中略)

小泉首相の帝国主義的、覇権主義的本性を証明して余りあるこの行為に、われわれは深い憤慨を禁じえない。小泉首相は、自身の誤った行動がもたらした重大な政治的結果にすべての責任を負わなければならない。もしも次週開催が予定されている「天皇賞」においても同様な参拝行為が行われるようであるならば、われわれ中国人民は北京オリンピックの開催を投げ出してもこの挑発的暴挙に立ち向かうであろう。

菊花賞の開催は刻一刻と迫っている。もしもアドマイヤジャパンが来たならばIRAは三連単神社を霊験あらたかな宗教施設として売り出す計画であると言う。

さあ、明日はどっちだ。(了)

上海馬券王